

【表紙】

| | |
|------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 東海財務局長 |
| 【提出日】 | 平成24年8月10日 |
| 【四半期会計期間】 | 第70期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社村上開明堂 |
| 【英訳名】 | MURAKAMI CORPORATION |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 村上 太郎 |
| 【本店の所在の場所】 | 静岡県静岡市葵区伝馬町11番地5 |
| 【電話番号】 | (054)253-1811(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 執行役員管理本部経営管理部長 長谷川 猛 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 静岡県静岡市葵区伝馬町11番地5 |
| 【電話番号】 | (054)253-1811(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役管理本部長 吉村 勝行 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第69期 第1四半期連結 累計期間 | 第70期 第1四半期連結 累計期間 | 第69期 |
|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 会計期間 | 自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日 | 自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日 | 自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日 |
| 売上高(百万円) | 11,426 | 15,830 | 54,917 |
| 経常利益(百万円) | 474 | 1,310 | 5,221 |
| 四半期(当期)純利益(百万円) | 234 | 1,477 | 2,440 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 473 | 1,937 | 2,238 |
| 純資産額(百万円) | 27,487 | 30,893 | 29,147 |
| 総資産額(百万円) | 42,437 | 48,766 | 46,755 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | 18.12 | 114.18 | 188.60 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円) | - | - | - |
| 自己資本比率(%) | 62.5 | 61.2 | 60.2 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び関係会社)が営んでいる主な事業内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や緩やかながらも個人消費の復調が見られ全体的には回復基調の動きが見られました。一方、世界経済全体では、欧州における債務問題により景気後退の懸念材料は払拭されていないものの、新興国の経済成長に牽引される流れを受け、世界経済は成長が緩やかなものとなりました。

主要取引先であります自動車業界においては、国内では震災後の自動車メーカーによる生産体制の回復に加え、「エコカー補助金」による環境対応車普及策の効果により、自動車生産台数は前年同期を大きく上回ることとなりました。また海外においても、北米における堅調な需要の伸びと、中国を代表とするアジア市場の需要増により自動車生産台数は前年同期を上回ることとなりました。

このような状況のもと、当第1四半期連結累計期間における売上高は、自動車用バックミラーを主力製品とするミラーシステム事業において、被災後の自動車メーカー各社における生産体制の回復と「エコカー補助金」による需要増により15,830百万円（前年同期比38.5%増）と大きく増加いたしました。利益につきましても、自動車生産台数の増加に伴う売上高増加等により、営業利益は1,168百万円（前年同期比193.7%増）、経常利益は1,310百万円（前年同期比176.3%増）、四半期純利益1,477百万円（前年同期比529.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

被災後の自動車メーカーにおける生産体制の回復と「エコカー補助金」による需要の増加により、売上高は10,625百万円（前年同期比62.2%増）となり、営業利益は1,001百万円（前年同期は営業損失157百万円）となりました。

アジア

市場における自動車需要の増加により、売上高は3,733百万円（前年同期比4.1%増）となりました。一方、利益面につきましては、洪水被害のあったタイ国生産拠点での一時的なコスト増加などの影響により、営業利益は159百万円（前年同期比71.0%減）となりました。

北米

経済政策の効果に伴う一般消費の堅調な回復により、自動車生産台数が増加した結果、売上高は1,471百万円（前年同期比14.2%増）となり、営業利益は11百万円（前年同期は営業損失5百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は77百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、日本の生産、受注及び販売実績が著しく増加いたしました。これは、主に被災後の自動車メーカー各社における生産体制の回復と「エコカー補助金」による需要増によるものであります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 29,900,000 |
| 計 | 29,900,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|--------------|
| 普通株式 | 13,100,000 | 13,100,000 | 東京証券取引所 (市場第二部) | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 13,100,000 | 13,100,000 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数 増減数(株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金増 減額 (百万円) | 資本準備金残 高(百万円) |
|--------------------------|-------------------|------------------|-----------------|----------------|-----------------------|------------------|
| 平成24年4月1日～ 平成24年6月30日 | - | 13,100,000 | - | 3,165 | - | 3,528 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 159,000 | - | 単元株式数 1,000株 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 12,854,000 | 12,854 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 87,000 | - | 1単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 13,100,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 12,854 | - |

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式775株が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|-----------------------|-------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社村上開明堂 | 静岡市葵区伝馬町 11番地5 | 159,000 | - | 159,000 | 1.21 |
| 計 | - | 159,000 | - | 159,000 | 1.21 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載していましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。

なお、比較を容易にするため、前第1四半期連結会計期間及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|-------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 8,661 | 11,547 |
| 受取手形及び売掛金 | 8,440 | 8,154 |
| 電子記録債権 | 832 | 726 |
| 商品及び製品 | 878 | 767 |
| 仕掛品 | 599 | 624 |
| 未成工事支出金 | 197 | 246 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,519 | 1,502 |
| 繰延税金資産 | 802 | 821 |
| その他 | 1,234 | 446 |
| 貸倒引当金 | 15 | 10 |
| 流動資産合計 | 23,151 | 24,827 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 11,652 | 11,644 |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 4,839 | 4,814 |
| 建物及び構築物（純額） | 6,813 | 6,830 |
| 機械装置及び運搬具 | 18,343 | 19,021 |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 14,057 | 14,181 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 4,286 | 4,840 |
| 工具、器具及び備品 | 14,805 | 15,023 |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 14,042 | 14,286 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 763 | 736 |
| 土地 | 5,362 | 5,281 |
| リース資産 | 371 | 374 |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 269 | 287 |
| リース資産（純額） | 101 | 87 |
| 建設仮勘定 | 933 | 813 |
| 有形固定資産合計 | 18,260 | 18,589 |
| 無形固定資産 | 476 | 478 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,179 | 1,972 |
| 投資不動産 | 2,049 | 2,181 |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 437 | 451 |
| 投資不動産（純額） | 1,612 | 1,729 |
| 繰延税金資産 | 349 | 465 |
| その他 | 788 | 766 |
| 貸倒引当金 | 62 | 62 |
| 投資その他の資産合計 | 4,866 | 4,871 |
| 固定資産合計 | 23,603 | 23,939 |
| 資産合計 | 46,755 | 48,766 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 7,532 | 7,516 |
| 短期借入金 | 1,334 | 1,338 |
| 未払法人税等 | 753 | 492 |
| 製品保証引当金 | 945 | 958 |
| 賞与引当金 | 809 | 1,219 |
| 役員賞与引当金 | 16 | 9 |
| その他 | 2,073 | 2,046 |
| 流動負債合計 | 13,466 | 13,580 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,676 | 1,868 |
| 退職給付引当金 | 1,369 | 1,371 |
| 役員退職慰労引当金 | 834 | 799 |
| 資産除去債務 | 60 | 60 |
| その他 | 200 | 191 |
| 固定負債合計 | 4,141 | 4,292 |
| 負債合計 | 17,607 | 17,873 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,165 | 3,165 |
| 資本剰余金 | 3,528 | 3,528 |
| 利益剰余金 | 22,010 | 23,384 |
| 自己株式 | 129 | 129 |
| 株主資本合計 | 28,574 | 29,948 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 803 | 618 |
| 為替換算調整勘定 | 1,228 | 726 |
| その他の包括利益累計額合計 | 425 | 107 |
| 少数株主持分 | 997 | 1,052 |
| 純資産合計 | 29,147 | 30,893 |
| 負債純資産合計 | 46,755 | 48,766 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 11,426 | 15,830 |
| 売上原価 | 9,957 | 13,431 |
| 売上総利益 | 1,468 | 2,399 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 運送費及び保管費 | 177 | 205 |
| 貸倒引当金繰入額 | - | 0 |
| 役員報酬 | 70 | 67 |
| 従業員給料 | 290 | 338 |
| 賞与引当金繰入額 | 86 | 88 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 9 | 9 |
| 退職給付費用 | 13 | 9 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 18 | 9 |
| 福利厚生費 | 70 | 75 |
| 旅費交通費及び通信費 | 49 | 72 |
| 減価償却費 | 33 | 36 |
| その他 | 250 | 317 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 1,071 | 1,230 |
| 営業利益 | 397 | 1,168 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 4 | 4 |
| 受取配当金 | 12 | 13 |
| 受取地代家賃 | 23 | 36 |
| 為替差益 | 6 | 69 |
| 開発業務受託料 | 25 | 13 |
| その他 | 26 | 25 |
| 営業外収益合計 | 97 | 161 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 6 | 6 |
| 賃貸費用 | 8 | 12 |
| 寄付金 | 5 | 0 |
| その他 | 1 | 1 |
| 営業外費用合計 | 21 | 19 |
| 経常利益 | 474 | 1,310 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 0 |
| 受取保険金 | - | 672 |
| 負ののれん発生益 | 5 | - |
| 特別利益合計 | 5 | 673 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 48 | 31 |
| 特別損失合計 | 48 | 31 |

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 税金等調整前四半期純利益 | 432 | 1,952 |
| 法人税等 | 119 | 412 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 312 | 1,539 |
| 少数株主利益 | 78 | 61 |
| 四半期純利益 | 234 | 1,477 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 312 | 1,539 |
| その他の包括利益 | | |
| 其他有価証券評価差額金 | 55 | 184 |
| 為替換算調整勘定 | 213 | 578 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 2 | 4 |
| その他の包括利益合計 | 160 | 398 |
| 四半期包括利益 | 473 | 1,937 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 380 | 1,794 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 93 | 143 |

【会計方針の変更】

| |
|--|
| 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
| 減価償却方法の変更 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。 |

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

| |
|---|
| 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
| 税金費用の計算 税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたもとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|--------------------|-------------------------|------------------------------|
| 受取手形 | 27 | 15 |
| 支払手形 | 264 | 227 |
| 設備支払手形(流動負債の「その他」) | 141 | 59 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 553百万円 | 657百万円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 平成23年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 129 | 10.00 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月30日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 平成24年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 103 | 8.00 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月29日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 | 合計 |
|-------------------|---------|-------|-------|--------|-----|--------|
| | 日本 | アジア | 北米 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 6,551 | 3,587 | 1,287 | 11,426 | - | 11,426 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 569 | 83 | 0 | 653 | - | 653 |
| 計 | 7,121 | 3,671 | 1,288 | 12,080 | - | 12,080 |
| セグメント利益又は損失() | 157 | 549 | 5 | 386 | - | 386 |

(注) 本邦以外の区分に属する国又は地域は以下のとおりであります。

アジア: タイ、中国

北米: 米国

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----|
| 報告セグメント計 | 386 |
| 「その他」の区分の利益 | - |
| セグメント間取引消去 | 106 |
| 全社費用(注) | 95 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 397 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 | 合計 |
|-------------------|---------|-------|-------|--------|-----|--------|
| | 日本 | アジア | 北米 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,625 | 3,733 | 1,471 | 15,830 | - | 15,830 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 923 | 207 | 0 | 1,131 | - | 1,131 |
| 計 | 11,549 | 3,941 | 1,471 | 16,962 | - | 16,962 |
| セグメント利益 | 1,001 | 159 | 11 | 1,171 | - | 1,171 |

(注) 本邦以外の区分に属する国又は地域は以下のとおりであります。

アジア: タイ、中国

北米: 米国

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 1,171 |
| 「その他」の区分の利益 | - |
| セグメント間取引消去 | 108 |
| 全社費用(注) | 111 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 1,168 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|----------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 18.12円 | 114.18円 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 234 | 1,477 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 234 | 1,477 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 12,942,605 | 12,940,225 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

事業の効率化並びに経営基盤強化を図ることを目的に、嘉興村上石崎自動車配件有限公司を存続会社として、嘉興村上開明堂自動車配件有限公司を平成24年7月19日に吸収合併しております。なお、存続会社とした嘉興村上石崎自動車配件有限公司は、嘉興村上自動車配件有限公司へ社名変更する予定です。

1. 対象となった企業の名称及びその事業の内容

嘉興村上石崎自動車配件有限公司 持分割合100% 自動車用バックミラーの製造販売
嘉興村上開明堂自動車配件有限公司 持分割合100% 自動車用バックミラーの製造販売

2. 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理いたします。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月10日

株式会社村上開明堂
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田宮 紳 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加山 秀 剛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社村上開明堂の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社村上開明堂及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。